

目標	IX	文化芸術の振興		
施策	26	文化芸術活動の充実		
主な取組	○ 文化芸術活動への参加の促進			
	○ 子供たちの文化芸術活動の充実			
	○ 障害者の文化芸術活動の支援			
	○ 県立美術館等における活動の充実			
	○ 地域における子供たちの多様な活動の場と機会を提供できる環境の整備（施策17, 23, 28にも記載）			
担当課	生涯学習推進課、文化財・博物館課、保健体育課、義務教育指導課			
主な事業				
事業名	予算額 (千円)	事業の概要・実績	事業の自己評価	担当課
埼玉県芸術文化祭開催費	8,292	<p>県民の文化活動への参加意欲の喚起と、地域文化の振興に寄与するため、埼玉県芸術文化祭を開催（埼玉県美術展覧会、地域文化事業、芸術文化ふれあい事業、協賛事業）する。</p> <p>○第72回埼玉県美術展覧会</p> <ul style="list-style-type: none"> 県民の創作した美術作品を近代美術館で展示・公開（日本画、洋画、彫刻、工芸、書、写真の6部門） 出品点数：3,157点、出品者数：2,637人、観覧者数：20,302人 高校生等が出品しやすい環境とするため「書」部門において応募要件を緩和 <p>○地域文化事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 市町や文化団体との共催により、地域に密着した伝統芸能、音楽コンサート、美術展覧会などを県内各地で開催 19市町延べ22事業を実施、77,218人が参加 37団体延べ37事業を実施、657,904人が参加 <p>○芸術文化ふれあい事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 文化団体が学校や公民館などに出向いて、公園や実技指導を行う。 51事業実施、4,836人が参加 <p>○協賛事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 埼玉県芸術文化祭の趣旨に賛同して行われる各種芸術文化事業を県芸術文化祭の協賛事業として承認 111事業実施、354,360人が参加 	<p>埼玉県芸術文化祭の参加者人数が令和5年度、新型コロナウイルス感染症拡大前の令和元年度以来、4年ぶりに100万人を超えたところである。令和6年度も100万人を超えており、令和5年度よりも参加者人数が増えていることから、多くの県民に文化芸術活動への参加の場や発表の機会を提供することができた。（参加者数：1,117,257人）</p> <p>県民の興味・関心の高い映画やアニメーションなどの映像文化関連事業を取り入れていないことが課題であったが、令和6年度は、協賛事業において映像文化関連事業が、5事業（令和5年度は0事業）加わった。</p> <p>課題としては、芸術文化祭に参加している複数の事業について、新型コロナウイルス感染症拡大前の参加者数に戻っていないことである。原因としては、感染症拡大を機に文化芸術活動から離れてしまった人が一定数いるものと考えられる。更なる参加者数の増加のため、県の発信力を高め、既存の文化芸術事業に加え、引き続き、映像文化など新たなジャンルの文化芸術事業を県民に対して広く周知をする必要がある。</p>	生推
社会教育関係事業費補助	1,025	<p>文化芸術団体の健全な育成を図るため、事業開催を支援する。</p> <p>○文化芸術団体の事業開催を支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会教育に関する事業を行う文化団体に対し、事業費補助金を交付 埼玉県吹奏楽祭：45千円、埼玉女流工芸展：350千円 	<p>文化芸術団体の活動を通じて、文化芸術団体に所属する県民、文化芸術団体の開催事業に参加する県民が、文化芸術活動の担い手となることが期待される。これらの文化芸術団体が継続的に活動できるよう支援を行うことができた。</p>	生推

		埼玉県文化振興の集い：580千円	今後も文化芸術発信拠点となる文化芸術団体を支援し、文化芸術活動の担い手育成に取り組んでいく必要がある。	生推
	2,305	<p>【芸術文化団体に対する補助】 文化芸術団体の健全な育成を図るため、運営を支援する。</p> <p>○文化芸術団体の運営を支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会教育に関する事業を行う文化団体に対し、運営費補助金を交付 ・埼玉県文化団体連合会：1,540千円、埼玉県合唱連盟：250千円、埼玉県美術家協会：420千円、埼玉県吹奏楽連盟：95千円 		
県立博物館・美術館等における教育・普及事業	17,645	<p>県民の豊かな感性や創造性を育むため、県立博物館・美術館等において、体験プログラム等の教育普及活動を実施する。</p> <p>○歴史と民俗の博物館</p> <p>①講座・体験プログラムの開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催数：開館日全日、32回 ・体験件数：8,716人 <p>②出前授業等の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催数：72校 ・参加者数：3,541人 <p>○さきたま史跡の博物館</p> <p>①講座・体験プログラムの開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催数：28回 ・参加者数：924人 <p>②出前授業等の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催数：72校 ・参加者数：3,541人 <p>○嵐山史跡の博物館</p> <p>①講座・体験プログラムの開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催数：7回 ・参加者数：858人 <p>○近代美術館</p> <p>①講座・体験プログラムの開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催数：35回 ・参加者数：2,272人 <p>②出前授業等の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催数：75校 ・参加者数：6,959人 <p>○自然の博物館</p> <p>①講座・体験プログラムの開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催数：14回 ・参加者数：271人 	各博物館・美術館等の特性や事業目的に合わせた体験プログラム等の教育普及活動や、児童生徒への出前授業の実施により、県民が文化芸術に触れ、豊かな感性や創造性を育む機会を提供することができた。	文博
			県民や児童生徒に文化芸術への興味関心を持ってもらえるよう、体験プログラムの充実や出前授業を実施するとともに、オンライン学習で活用できる教材や資料を充実させていく。	

		<p>②出前授業等の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催数：32校 ・参加者数：1,700人 <p>○川の博物館</p> <p>①講座・体験プログラムの開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催数：29回 ・参加者数：5,834人 <p>②出前授業等の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催数：58校 ・参加者数：3,326人 <p>○文書館</p> <p>①講座・体験プログラムの開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催数：8回 ・参加者数：901人 <p>②出前授業等の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催数：23校 ・参加者数：656人 <p>○さいたま文学館</p> <p>①講座・体験プログラムの開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催数：20回 ・参加者数：505人 		
部活動指導充実支援事業 (施策6、10、17、23にも掲載)	68,340	<p>【地域部活動推進事業・文化部】</p> <p>地域の実情に応じた地域クラブ活動の整備・充実を図るため、実証事業を実施する市町村等への普及・啓発や委託を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○県内市町村による実証事業 ○人材バンクの管理・運営 ○令和6年度実証事業の実施自治体（文化部）：3市、県立学校1校 ○埼玉県地域クラブ活動シンポジウムの開催 2回（8月、2月） ○人材バンク（文化・芸術）登録者数19人 	<p>シンポジウムの開催により、実践事業で得られた成果や課題を市町村に共有、周知するとともに、関係者の理解促進を図ることができた。</p> <p>令和7年度に国の実証事業（文化部）に参加を希望している自治体は8市町であり、令和6年度より増加する予定である。</p> <p>令和6年3月に開始した人材バンク（文化・芸術）は、令和7年3月末時点で登録者数が19人となった。</p>	義指
		<p>【地域部活動推進事業・運動部】</p> <p>地域の実情に応じた地域クラブ活動の整備・充実を図るため、実証事業を実施する市町村等への普及・啓発や委託を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○実証事業参加市町（学校） ・（南部）戸田市、蕨市、上尾市、鴻巣市、伊奈町 ・（西部）鶴ヶ島市、ふじみ野市 ・（北部）熊谷市、深谷市 ・（東部）久喜市、白岡市、三郷市 ・（県立）伊奈学園中 	<p>実証事業は12市町及び県立伊奈学園中学校で実施した。</p> <p>県民を対象としたシンポジウムの実施、市町村担当者を対象とした実証事業報告会及び研修会、リーフレットの配布、実証事業12市町の取組を紹介する動画の作成・周知、人材バンクの登録対象者の拡大、市町村教育委員会への訪問ヒアリング等を実施し、地域の実情に応じた地域クラブ活動の整備・充実を図るための普及・啓発や委託を実施した。</p>	保体

		○人材バンク登録者数 ・運動部：58人																									
施策指標の 達成状況・ 原因分析	●埼玉県芸術文化祭への参加者数（人）【出典：埼玉県による実績調査】																										
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> <th>年度目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R4</td> <td>977,695</td> <td></td> </tr> <tr> <td>R5</td> <td>1,010,545</td> <td></td> </tr> <tr> <td>R6</td> <td>1,117,257</td> <td>1,100,000</td> </tr> <tr> <td>R7</td> <td></td> <td>1,200,000</td> </tr> <tr> <td>R8</td> <td></td> <td>1,300,000</td> </tr> <tr> <td>R9</td> <td></td> <td>1,400,000</td> </tr> <tr> <td>R10</td> <td></td> <td>1,500,000</td> </tr> </tbody> </table> <p>【原因分析】 県民の興味・関心の高い映画やアニメーションなどの映像文化を事業に取り込むため幅広く事業の周知募集を行った。これにより、令和6年度は、協賛事業において映像文化関連の事業が、5事業（令和5年度は0事業）加わった。また、地域文化事業の参加事業数が増加（令和5年度55事業、令和6年度59事業）し、年度目標を上回る要因になった。 新型コロナウイルス感染症拡大前の令和元年度と令和6年度の参加者数を比較すると、感染症拡大前の数に達していない事業が多く、感染症拡大を契機に文化芸術活動から離れてしまった県民を呼び戻し切れていないものと考えられる。</p>		年度	実績	年度目標値	R4	977,695		R5	1,010,545		R6	1,117,257	1,100,000	R7		1,200,000	R8		1,300,000	R9		1,400,000	R10		1,500,000	
年度	実績	年度目標値																									
R4	977,695																										
R5	1,010,545																										
R6	1,117,257	1,100,000																									
R7		1,200,000																									
R8		1,300,000																									
R9		1,400,000																									
R10		1,500,000																									
学識経験者の 意見・提言	<p>埼玉県芸術文化祭の取組は非常にすばらしく、特に県がリードして実施している点を評価したい。目標達成には、県民が参加しやすい環境づくりと広報活動の充実が不可欠である。特に、子供や若い世代を巻き込むことが重要であり、学校との連携による芸術展示や参加型プログラムを充実させることで、文化芸術への関心を持つ裾野を広げることができる。また、芸術文化祭を通じて、県民一人一人が文化芸術の魅力を身近に感じる機会を提供することは、県全体の文化的な成熟度を高めることにつながる。さらに、地域住民や若い世代の積極的な参加を促す取組を進めることで、埼玉県の文化芸術活動が更に価値のあるものとなると期待している。これらの施策を着実に推進し、県全体の文化芸術活動を発展させてほしい。</p>																										
	<p>埼玉県芸術文化祭は、県民の約7分の1にあたる111万人以上が参加する大変意義深い取組であり、埼玉県の大きな財産と言える。周知活動や、県民が参加しやすい環境づくりが必要と考える。特に、新しい形での参加促進策や、感染症の影響で文化芸術活動から離れてしまった方々を呼び戻し、目標達成に努めていただきたい。</p>																										
今後の取組	<p>既存の文化芸術事業に加え、映像文化など新たなジャンルの充実を図り、広報活動を強化する。また、子供たちをはじめ、多くの県民に文化芸術活動への参加の場や発表の機会を積極的に提供し、より文化芸術に親しみ、楽しむことができる環境づくりを推進する。</p>			生推																							
	<p>引き続き県民や児童生徒に文化芸術への興味・関心を持ってもらえるよう、各博物館、美術館等の体験プログラムや出前授業等を実施していく。</p>			文博																							
	<p>中学校における学校部活動の地域クラブ活動への移行について、市町村の取組に対し伴走型の支援を行い、地域クラブ活動が推進できるように取り組んでいく。</p>			保体																							
	<p>部活動シンポジウムや市町村教育委員会への訪問を通して、県内の市町村が円滑に文化部活動の地域展開（地域移行）を進められるよう支援していく。また、文化部活動実証研究事業を通して、地域展開（地域移行）の課題を県内市町村に共有し、引き続き地域展開（地域移行）への理解促進を図る。</p>			義指																							

目標	IX	文化芸術の振興		
施策	27	伝統文化の保存と持続的な活用		
主な取組	○ 伝統文化の保存・活用・価値の再評価			
	○ 伝統文化の魅力発信と伝統文化を学ぶ機会の充実			
	○ 市町村の取組への支援			
担当課	文化財・博物館課			
主な事業				
事業名	予算額 (千円)	事業の概要・実績	事業の自己評価	担当課
県立博物館・美術館等における活動の充実	139,836	<p>郷土埼玉の歴史や伝統文化などの魅力を発信するため、県立博物館・美術館等において企画展・特別展等を実施する。</p> <p>○歴史と民俗の博物館：特別展「鷹のおでましー鷹狩の美術ー」 ・（観覧者数：5,675人）ほか</p> <p>○さきたま史跡の博物館：企画展「古墳時代の装いーおしゃれな古代人ー」 ・（観覧者数：11,396人）ほか</p> <p>○嵐山史跡の博物館：企画展「城ってなんだ」 ・（観覧者数：2,868人）ほか</p> <p>○近代美術館：企画展「吉田克朗展ーものに、風景に、世界に触れるー」 ・（観覧者数：8,863人）ほか</p> <p>○自然の博物館：企画展「外来生物in埼玉！」 ・（観覧者数：30,154人）ほか</p> <p>○川の博物館：特別展「自然の“国宝”展～天然記念物からみた埼玉の自然～」 ・（観覧者数：27,032人）ほか</p> <p>○文書館：企画展「みんなの学校ー教育史編さんと学校アーカイブズ」 ・（観覧者数：1,376人）ほか</p> <p>○さいたま文学館：企画展「『あべ弘士の時間です』あべ弘士絵本原画展」 ・（観覧者数：1,163人）ほか</p>	<p>さきたま史跡の博物館では、人物埴輪や実際に身につけていた装飾品の出土例を展示した古墳時代の人々の装いやおしゃれについて考察する企画展「古墳時代の装いーおしゃれな古代人ー」を開催し、地域の史跡の魅力を発信した。</p> <p>また、歴史と民俗の博物館では、特別展「鷹のおでましー鷹狩の美術ー」を開催し、美術作品に描かれた鷹に着目し、鷹にまつわる歴史や文化、鷹狩を紹介し、地域の文化財や歴史の魅力を発信した。</p> <p>その他の博物館等においても各館の特色を活かした企画展等の実施を通して埼玉の魅力を発信した。引き続き、興味・関心を引き付ける展示を企画し、幅広い利用者に文化財に触れるきっかけを提供していく。</p>	文博
博物館、美術館におけるSNS等による情報発信	0	<p>より多くの県民が伝統文化に触れるきっかけをつくるため、作成した収蔵資料の3Dモデルの公開や、オンライン講座・出前授業等を実施するなど、ホームページやSNS、動画投稿サイト等を活用した情報発信を行う。</p> <p>○8館の情報発信</p> <p>・X：令和6年度ポスト数：1,761回、フォロワー数：66,193人</p> <p>・YOUTUBE：投稿総数：226本、再生回数：454,298回</p> <p>・オンライン講座：29件、参加者数1,931人</p>	<p>各博物館・美術館においてSNS等を活用し、企画展やイベント、収蔵品の紹介を行い、博物館、美術館の魅力を広く伝えることができた。</p> <p>また、それぞれの特徴を生かした映像コンテンツの配信やオンラインによる講座の実施により、多くの県民に学びの機会を提供することができた。</p> <p>より多くの県民に館の魅力が伝わるよう、SNS等を活用した情報発信を進めていく。</p>	文博

文化財保護事業補助	106,498	<p>本県の貴重な文化財の保存・継承・管理を図るため、文化財の所有者・管理者等が行う文化財の保存事業に対し補助金を交付する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○国指定文化財、県指定文化財の保存事業（国指定・登録27件、県指定52件） ○市町村が実施する試し掘り等の調査に対する補助金の交付（43件） ○県指定無形民俗文化財の後継者養成を目的とした事業（8件） 	補助金の交付により、文化財の保存措置を適切に行うことができた。	文博
文化遺産調査活用事業	2,478	<p>【無形民俗文化財調査研究費及び自然遺産調査研究費】</p> <p>埼玉の歴史文化を再発見し、埼玉の魅力を発信するため、潜在的な歴史文化遺産を新たに掘り起こすための学術調査等を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○無形民俗文化財調査事業として、現地調査（行田市樋上、羽生市下新郷）、調査概報Ⅶの刊行、映像記録「玉敷神社のお獅子さま」制作の実施。 ○自然遺産：「長瀬自然遺産」の現地調査（長瀬町、地質・動物・植物分野）など 	県立博物館が実施する学術調査により各分野における新たな資料を収集し、その結果を公表した。	文博
文化財管理事業	3,026	<p>県内の国・県指定文化財の適切な保存活用を推進するため、文化財の保存に必要な調査・協議、広域文化財や県管理文化財の保存活用に必要な事業を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○文化財の適切な保存管理に必要な協議会への参加、有識者会議の開催、所在確認調査・目録刊行等 ○8県で構成される「古代歴史文化協議会」における「古墳時代の中央と地域」に関する共同研究の実施 ○博物館法に定められた登録審査業務 	<p>文化財関連会議の開催や、定期的な指定文化財の所在確認調査・目録刊行等を行い、県内文化財の保存活用や周知に努めた。</p> <p>古代歴史文化協議会では、12月8日に都内で歴史文化講演会を開催し、令和5年度から進めてきた共同研究の成果を発表した。868人の参加があった。</p> <p>博物館法に基づき、5件の登録審査、1件の博物館相当施設指定要件確認を行った。</p>	文博
特別史跡埼玉古墳群保存活用事業	15,517	<p>特別史跡埼玉古墳群を次世代へ確実に継承するため、史跡の保存・整備を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○史跡の案内板・誘導板・解説板の設置 ○愛宕山古墳の発掘調査 ○鉄砲山古墳の整備に係る実施設計 	案内板、誘導板、解説板の設置により、古墳群を訪れる人の利便性が向上した。愛宕山古墳の発掘調査では古墳の立体構造が明らかになったほか、築造年代を明らかにする資料が出土し、今後の保存活用に資する情報を得ることができた。また、鉄砲山古墳の理解促進を目的とした周堀復元整備に向けて実施設計を行った。	文博
埋蔵文化財保存活用事業	76,622	<p>埋蔵文化財保護の啓発のため出土文化財を学校教育や社会教育において活用する。また、出土文化財を次世代へ確実に継承するため、整理及び保存処理を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「古代から教室へのメッセージ事業」の実施（42校 参加2,551人） ○遺跡見学会の実施（2回 参加269人） ○ぜい弱な出土品である金属製品(300点)、木製品(370点)の保存処理 	小中学校、特別支援学校での実物資料を用いた出前授業の実施や、県民を対象に遺跡見学会での遺構、遺物の公開を通じて、埋蔵文化財保護思想の啓発を図ることができた。また、ぜい弱な金属製品、木製品合保存処理を実施し、出土資料の活用が可能となった。	文博

<p>施策指標の達成状況・原因分析</p>	<p>●県立博物館等の年間利用者数（人） [出典：埼玉県による実績調査]</p> <table border="1" style="margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th></th> <th>R4</th> <th>R5</th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●実績</td> <td>627,505</td> <td>606,572</td> <td>911,830</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>◆年度目標値</td> <td></td> <td></td> <td>779,000</td> <td>834,000</td> <td>890,000</td> <td>945,000</td> <td>1,000,000</td> </tr> </tbody> </table> <p>【原因分析】 歴史と民俗の博物館において、渋沢栄一を図柄にした新一万円札が発行されるのに合わせてお金の歴史や現在をテーマにした企画展を実施した。また、自然の博物館において、長瀬が名勝・天然記念物に指定されて100周年となることを記念して企画展を実施するなど、各館でそれぞれの特色を生かしながら話題性や機を捉えた展示や教育普及事業を実施するとともに、展示情報に係る記事を計画的にSNSで投稿するなど積極的な広報活動を行ったことが、利用者増に結び付いた要因である。</p>		R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	●実績	627,505	606,572	911,830					◆年度目標値			779,000	834,000	890,000	945,000	1,000,000	<p>文博</p>
	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10																			
●実績	627,505	606,572	911,830																							
◆年度目標値			779,000	834,000	890,000	945,000	1,000,000																			
<p>学識経験者の意見・提言</p>	<p>文化財や博物館の役割を次世代への文化継承や学習の場として更に発展させることが重要である。特に、市町村教育委員会との連携を強化し、学校単位での活用を促進することで、子供たちが文化や歴史に触れる機会を増やせるのではないかと。また、県民が「お金を払っても行く価値がある」と感じられるような展示内容や学びの質を追求し、施設の魅力を一層高める必要がある。さらに、SNSや動画配信など現代的な情報発信手段を活用し、若年層や家族連れなど多様な層へのアプローチを強化することが期待される。地域住民にとって身近でかけがえのない文化施設となるよう、引き続きの取組を期待する。</p> <p>博物館や文化施設が県民にとって貴重な学びや楽しみの場として機能している点を高く評価する。特に、利用者数が目標を大きく上回ったことはすばらしい成果である。今後さらに、県内外に向けた情報発信を強化し、埼玉県ならではの伝統文化の魅力を広げる取組が求められる。周知方法の多様化を検討することで利用者数の更なる増加が期待できる。文化の価値を県民に実感していただき、誇りを持てる施設となるよう、取組の継続と充実を期待する。</p>																									
<p>今後の取組</p>	<p>各県立博物館・美術館等の特徴を生かした魅力的な展示事業の実施に努めるとともに、SNS等をはじめとした多様な広報活動を計画的に実施することで、若年層や家族連れなど幅広い層に対して魅力を発信する。また、市町村教育委員会に博学連携事例を周知することにより、学校教育における博物館活用の促進につながるよう努める。</p> <p>また、歴史文化遺産を新たに掘り起こすための学術調査の実施や、特別史跡埼玉古墳群の整備事業などを行うとともに、文化財の所有者等の保存事業や防災対策への補助金の交付や市町村の文化財保存活用地域計画の作成の支援を実施し、文化財の保存・活用及び次世代への継承に努める。</p>	<p>文博</p>																								